

「少し」と「ちょっと」の比較分析

—— アンケート調査による使用頻度の差異 ——

小 泉 穰 子

1. はじめに

「少し」と「ちょっと」は、共に「少量」、「小程度」を表す副詞である。しかし、「ちょっと信じられない」の「ちょっと」を「少し」に置き換えると違和感があるように、「ちょっと」の持つ意味、用法は「少し」よりも幅広いことがうかがえる。そのため、「少し」と「ちょっと」では、使われやすさに違いが生じているのではないだろうか。

本稿では、アンケート調査によって「少し」と「ちょっと」の使用頻度の差を調べ、「少し」が使用されやすい場面、「ちょっと」が使用されやすい場面を明らかにしていく。

2. 先行研究

2-1. 「少し」と「ちょっと」の位置づけ

仁田 (2002) は、「少し」と「ちょっと」を「量程度の副詞」に分類している。「量程度の副詞」とは、「この本は(少し/ちょっと) 古い」のように形容詞の修飾を行うことのできる「純粹程度の副詞」と、「お酒を(少し/ちょっと) 飲んだ」のように人や物の数を表す「量の副詞」の両方の特徴を有したものを指す。

2-2. 「ちょっと」の意味・用法

「ちょっと」については、先行研究でも複数の意味・用法が挙げられている。

周 (1994) は、要求行為において、話し手が聞き手に自分の利益を損なわれたと思った時、「ちょっと」を用いることでその不満や怒りを表すと述べている。例として、「ちょっとやめてよ」などを挙げ、この「ちょっと」が持つ機能を「咎め機能」と名づけた。

門倉 (1996) は、「一杯、どう? / 今日、ちょっと (つきあえません) …」という言いさし文の例を挙げ、「ちょっと」に「断りの意向を表す」機能が存在すると述べている。

秋田 (2005) は「聞き手への負担を軽減する」例として「先生、ちょっとよろしいですか↑」を挙げている。この場合における「ちょっと」は、時間の長さを表しているのではなく、聞き手への負担を軽減するために用いられているという。

一方、笹本 (2006) は、行為要求文に表れる「ちょっと」には、上記のような「配慮」や「咎め機能」はないと指摘している。「ちょっとやめてよ!」という文では、「ちょっと」がなくても相手を咎めていることがわかるため、「ちょっと」自体に「咎め機能」があるとは考えにくい。代わりに笹本 (2006) が挙げたのは、「要求行為を即座に行わせる強制力を持つ機能」である。「ちょっとこっちの部屋にきてくれ」という文では、「今すぐに」という意味が含意されている

という。

謝 (2007) は、「ちょっと」は、客観的な描写では「少しばかり」という低い程度を表すが、「勧誘・要求」「願望・意志」「判断・評価」などのモダリティ文においては、低い程度も高い程度も表すことができると述べ、『「ちょっと」がどの程度を表すかは文脈に依存している』とした。

小出 (2012) は、「ちょっと」が程度副詞や量副詞としてだけではなく、モダリティ副詞やフィラーとしての用法も持つと述べている。なお、小出 (2012) は、フィラーを認める基準の一つとして「文あるいは談話を形作るための成分としての位置づけを持たない」ことを挙げている。小出 (2012) が挙げたフィラーとしての「ちょっと」の例には、「(中略)ホストファミリーの中に問題があって、それで、うーん、ちょっと、家族の中の問題でー(中略)」があり、この「ちょっと」が、「整合的な説明はむずかしいが、というような姿勢と関わりがある」としている。

2-3. 付属形式と「ちょっと」

三宅 (2003) は、小説や雑誌から「少し」や「ちょっと」の使用状況を調査している。同調査からは、「すこしは／ちょっとは」や「すこしの／ちょっとの」、「もうすこし／もうちょっと」などの「付属形式」は、「ちょっと」では「少し」に比べて出現しにくいという結果が出ている。小説・雑誌内で動詞を修飾対象とする場合、付属形式を伴わない「少し」が5～6割であったのに対し、付属形式を伴わない「ちょっと」は9割以上であった。

三宅 (2003) の調査では、小説・雑誌内から取り寄せた例文を用いているが、本稿では筆者が作成したアンケートの例文を用いて、「ちょっと」の「量副詞らしくない」側面を検証する。

3. 研究の目的と意義

本稿では、格助詞の有無や文体などが「少し」と「ちょっと」の使用状況にどう影響するかを調査し、「少し」が使われやすい場面、「ちょっと」が使われやすい場面を明らかにする。

本研究が、日本語学習者の学習や、日本語母語話者同士あるいは日本語母語話者と日本語学習者との会話を円滑にする一助となれば幸いである。

4. アンケート調査

4-1. アンケートの概要

「少し」と「ちょっと」が、それぞれどのような場面で使用されやすいか調査するアンケートを実施した。有効回答者数は1170名である。なお、性別、出身地、年齢、職業、各設問の回答のいずれかが未記入のものは無効回答とした。また、出身地が日本以外のものは少数だったため、調査対象から外した。

4-2. アンケート回答者内訳

アンケート回答者の内訳は以下の通りである。

表 4-2-1. 年齢別内訳

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
335	394	89	132	146	31	43	1170

表 4-2-2. 出身地別内訳

山口	広島	福岡	島根	長崎	岡山	熊本	
362	173	109	96	80	53	43	
佐賀	兵庫	宮崎	大分	鳥取	大阪	愛媛	
40	29	22	19	16	16	13	
鹿児島	京都	沖縄	岐阜	香川	静岡	愛知	
12	10	9	9	7	7	5	
東京	徳島	滋賀	神奈川	北海道	高知	奈良	
5	4	3	3	3	2	2	
三重	埼玉	福井	福島	和歌山	富山	石川	
2	2	2	2	1	1	1	
新潟	長野	千葉	山梨	宮城	岩手	青森	合計
1	1	1	1	1	1	1	1170

表 4-2-3. 性別内訳

男	女	合計
480	690	1170

表 4-2-4. 職業別内訳

学生	社会人	合計
652	518	1170

性別は、女性が男性より200名近く多くなった。出身地は山口県が最も多く、広島県、福岡県と続き、全体的に中国地方や九州地方に偏っている。年齢に関しては、10代や20代など若い世代に集中した。

4-3. 集計と分析

以下に、設問1から設問18までのアンケートの集計結果をグラフで示していく。グラフ中の選択率は小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位までを表示した。

設問1. そのケーキ、(少し・ちょっと) ちょうだい。

設問1は、聞き手に対する話者の依頼文である。「ちょっと」の選択率が「少し」の選択率を38.2ポイント上回る69.1%となった。「ちょうだい」という親しい間柄で使うような言葉があるため、より口語的でくださった印象を与える「ちょっと」の選択率が高くなったのだと考えられる。

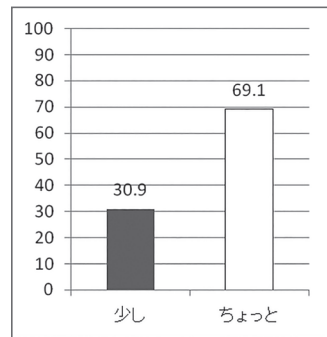


図4-3-1. 設問1の選択率(%)

設問2. そのケーキ、(少し・ちょっと) だけちょうだい。

設問2も聞き手に対する話者の依頼文である。「少し」や「ちょっと」の後に副助詞「だけ」を置き、両者の数量性を意識させる設問文とした。三宅(2003)が、「少し」に比べて「ちょっと」の「数量名詞性」は薄いと述べているため、「少し」の選択率が設問1より高くなると予想したが、結果は設問1とほぼ変わらない34.3%となり、「ちょっと」の選択率65.7%を31.4ポイント下回った。設問1と同様、親しい間柄で使われやすい「ちょうだい」という言葉があることが影響していると考えられる。

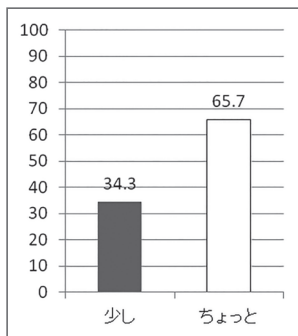


図4-3-2. 設問2の選択率(%)

設問3. 私の話を(少し・ちょっと)聞け。

設問3は命令文である。「ちょっと」の選択率が61%となり、「少し」の選択率39%と22ポイントの差が出た。文末の「聞け」は命令形だが、設問3の文は、相手に行為を要求する依頼文であると捉えることもできる。そのため設問3の「ちょっと」には、「少しの時間」という意味だけではなく、周(1994)が述べた「咎め機能」や、秋田(2005)の負担を減少させる機能、笹本(2006)の「即時性」機能が含まれているとも考えられる。

「少し」は「少し食べる」というように命令文でも使えるが、設問3においては、「少しの時間」という解釈に違和感を覚えた回答者もいたのではないだろうか。そのため、「少量」という意味以外も表せる「ちょっと」の選択率が高くなったと考えられる。

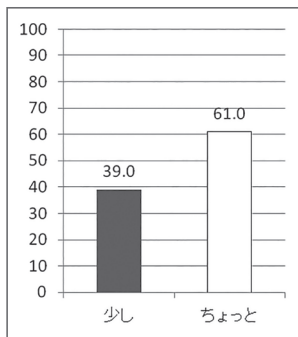


図4-3-3. 設問3の選択率(%)

設問4. 遊んでばかりいないで、(少し・ちょっと)は勉強しろ。

設問4も設問3と同様、命令文である。しかし、「少し」の選択率が68.1%となり、「ちょっと」の選択率31.9%を36.2ポイント上回る結果となった。取り立て助詞「は」があると、「少し」や「ちょっと」が表す内容は「少量の時間」に限定される。そのため設問4の「ちょっと」には、設問3で述べた「咎め機能」や、強制力を持った「即時性」の機能は現れにくい。明らかに数量を示す場合は、「少し」の方が使われやすいと言える。

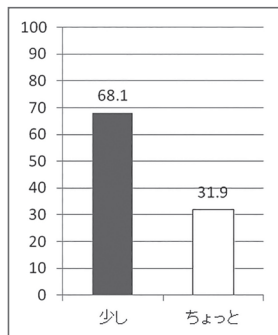


図4-3-4. 設問4の選択率(%)

設問5. 待ち合わせの時間より、到着が(少し・ちょっと)早すぎた。

設問5は「早すぎた」という話者の主観が入っているモダリティ文である。「少し」の選択率が58.5%となり、「ちょっと」の選択率41.5%を17ポイント上回る結果となった。モダリティ文においては「ちょっと」の使用頻度が高くなると予想したが、結果は予想を裏切るものになった。設問5はモダリティ文だが、文末が「早すぎた」という過去形になっており、客観性の高い文であるとも言える。モダリティ性の弱い文であるため、「少し」の選択率が高くなったのかもしれない。

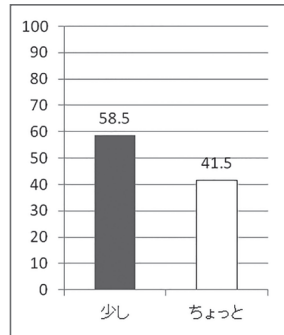


図4-3-5. 設問5の選択率(%)

設問6. 待ち合わせの時間より、(少し・ちょっと)でも早く着くように行こうよ。

設問6は、文末に終助詞「よ」があり、話者の勧誘を示すモダリティ文となっている。「少し」の選択率が54.6%、「ちょっと」の選択率が45.4%となり、両者の差は9.2ポイントしかなかった。副助詞「でも」があることにより、両者が表すものは数量的な「時間」に限定される。数量的イメージが濃い文だと「少し」が使われやすいが、設問6の文体は、親しい人に話しかけるものであると考えることができる。そのため、親しみを感じやすい「ちょっと」を選択した回答者も多かったのだろう。

また、設問6は非過去の文でもある。しかし、過去形の文である設問5と比較しても、「少し」と「ちょっと」の選択率にほぼ差が見られないことから、両者の使い分けに過去、非過去はあまり関係しないと考えられる。

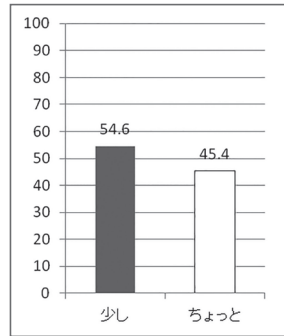


図4-3-6. 設問6の選択率(%)

設問7. 疲れたから(少し・ちょっと)休ませて。

設問7は話者の依頼文である。「ちょっと」の選択率が75.3%となり、「少し」の選択率24.7%を50.6ポイント上回った。「休ませて」は使役形だが、相手に許可を求めているため、話者の主張が強く表れているモダリティ文だと言える。そのため「ちょっと」に「即時性」などの機能があるとも解釈できるようになり、選択率が高くなったのだろう。

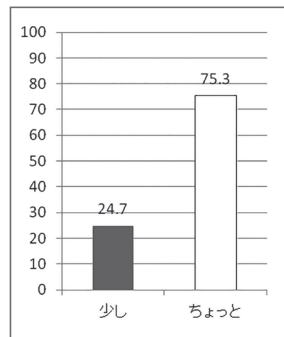


図4-3-7. 設問7の選択率(%)

設問8. 疲れたから（少し・ちょっと）の間休ませて。

設問8も設問7と同様、話者の依頼を示すモダリティ文である。「少し」の選択率が63.7%、「ちょっと」の選択率が36.3%となった。「の間」があることにより、「少し」や「ちょっと」は連体修飾語となるが、連体修飾語になりやすいのは「少し」の方だと捉えることができる。三宅（2003）の「「ちょっとのあいだ」は使われにくい」という説を裏付ける結果となった。「の間」があると、両者が表すものは時間量に限定され、「ちょっと」が「即時性」など他の機能を働かせているとは考えにくい。そのため「ちょっと」の選択率が低かったのだろう。また、「ちょっと」に対する数量性イメージが薄くなっているとも考えられる。

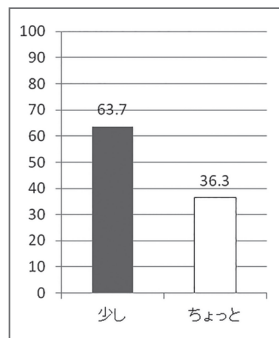


図4-3-8. 設問8の選択率(%)

設問9. 彼の仕事量は私のよりも（少し・ちょっと）多い。

設問9の「少し」や「ちょっと」は、仕事の分量を表している。「少し」の選択率が64.3%、「ちょっと」の選択率が35.7%で、28.6ポイントの差が見られた。仕事量などの分量を表すときは「少し」が用いられやすいことがわかる。

文末の「多い」は、ク活用のイ形容詞である。状態形容詞が多いク活用の形容詞は、感情形容詞の多いシク活用の形容詞よりも客観性が高くなるため、設問9の設問文はモダリティ性が弱い文であると言える。「ちょっと」の選択率が低かったのは、設問9から話者の心的態度を表すモダリティ性を感じにくかったためであろう。

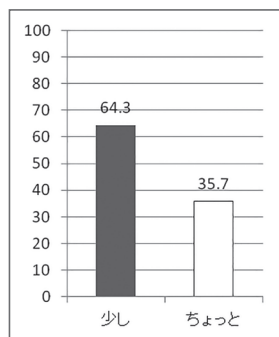


図4-3-9. 設問9の選択率(%)

設問10. 彼の仕事は私のよりも（少し・ちょっと）大変そうだ。

設問10は、「少し」や「ちょっと」が仕事の大変さを表す文である。「少し」の選択率が49.3%、「ちょっと」の選択率が50.7%となり、両者には1.4ポイントしか差がなかった。蓋然性を表す様態の助動詞「そうだ」は、物事に対する話者の判断を示す対事的モダリティに分類される。また、文末の「大変だ」は主観性の強いナ形容詞であるため、設問10の設問文はモダリティ性の強い文であると言える。そのため「ちょっと」の選択率が高くなると予想したが、実際は、「少し」の選択率とポイント差が見られなかった。

設問10は発話の相手が親しい人であると想像しにくい文であったため、やや堅苦しみの残る「少し」の選択率が高くなっ

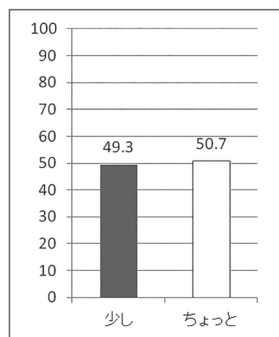


図4-3-10. 設問10の選択率(%)

たとも考えられる。

また、設問9では仕事の分量を尋ねていたのに対し、設問10では仕事の大変さを尋ねている。「少し」や「ちょっと」が表すものが量であるか質であるかによって両者の使用頻度が変わる可能性もあると言える。

設問11. この問題は難しくして（少し・ちょっと）解けそうにない。

設問11は、話者の実現不可能性を表すモダリティ文となっている。「ちょっと」の選択率が86.1%、「少し」の選択率が13.9%となり、72.2ポイントの差が出た。蓋然性を表す様態の助動詞「そう」と否定「ない」の二種類のモダリティが含まれているため、「ちょっと」の選択率が高くなったと考えられる。

『日本国語大辞典（第二版）』（2001）の「ちょっと」の欄に、「(打消のことはを伴って) 事態や判断が簡単には成立しがたいことを表わす語。簡単には(…ない)、手軽には(…できない)」という記述があるため、「ちょっと」と否定「ない」は共起しやすいと言える。

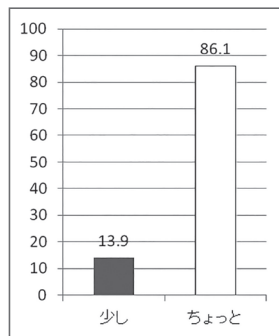


図4-3-11. 設問11の選択率(%)

設問12. この問題集は難しくして（少し・ちょっと）しか解けそうにない。

設問12も話者の実現不可能性を表すモダリティ文である。設問11と同様、蓋然性を表す様態の助動詞「そう」と否定「ない」の二種類のモダリティが含まれているため、「ちょっと」の選択率が高くなると予想したが、結果は「少し」の選択率が66.6%となり、「ちょっと」の選択率33.4%を33.2ポイント上回った。

『日本国語大辞典（第二版）』（2001）には、副助詞「しか」の説明として、「体言・活用語の連体形・形容詞の連用形・格助詞・副助詞等をうけ、下に打消の語を伴う。肯定し得るものをそれだけと限定し、それ以外のものを否定する」とある。

回答者は、設問文から「解ける問題の量が僅かである」という否定的なイメージを抱きやすい。

また、設問11で「問題」となっている部分は、設問12では「問題集」となっており、解ける問題の「数」に焦点を置いた設問文であると言える。設問12のように数量性を意識させる文では、「少し」の方が使用されやすいと考えられる。

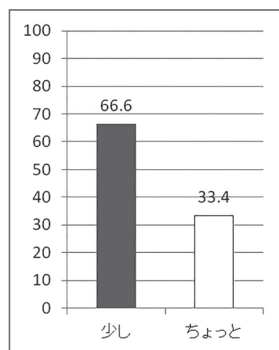


図4-3-12. 設問12の選択率(%)

設問13. 体調の悪い彼に仕事を強要するのは（少し・ちょっと）ひどいと思う。

設問13の「少し」や「ちょっと」は、ひどさの程度を表している。「ちょっと」の選択率が66.8%となり、「少し」の選択率33.2%と33.6ポイントの差異が出た。文末に「と思う」という話者の主張を表すモダリティがあるためだと考えられる。

また、形容詞「ひどい」は、『日本語大辞典（第二版）』（2001）にも「一般的に、程度がはなはだしい。過度である。極端である」とあるため、高い程度を表す語であると言える。劉（1999）は、「財産」や「美人」など、「もともとそれ自身が高い程度のものである」とき、「ちょっと」のような小程度を表す言葉を挿入しても、比較的高い程度を表すことができるとしている。設問13における「ちょっと」も、後続の「ひどい」の影響を受けて、高い程度を表しやすくなっているのではないだろうか。

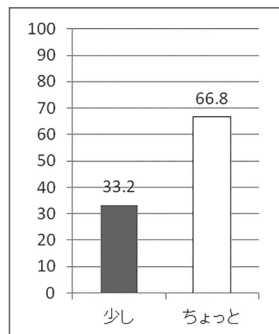


図4-3-13. 設問13の選択率(%)

設問14. 訓練と聞いたから、もう（少し・ちょっと）ひどいものかと思った。

設問14では、「少し」の選択率が66.2%、「ちょっと」の選択率が33.8%となり、両者に32.4ポイントの差が見られた。副詞「もう」の意味として、『日本国語大辞典（第二版）』（2001）には、「限定した数量を示す語を伴って、ある状況をさらにそれだけ続けよう、または、ある数量にさらにそれだけ加えようとする気持を表わす語」と記載されている。設問14の「少し」や「ちょっと」が表すものは「程度」であるが、数量性を意識させる「もう」があるため、数量性イメージが濃い「少し」の選択率が、数量性イメージが薄い「ちょっと」の選択率より高くなったのだろう。設問12でも述べたように、「少し」は「ちょっと」より数量性イメージが濃いとと言える。

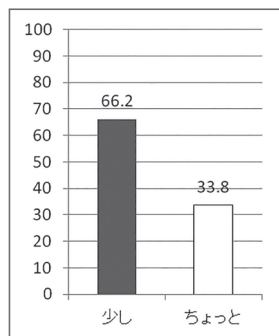


図4-3-14. 設問14の選択率(%)

設問15. （少し・ちょっと）手伝ってほしい。

設問15は話者の願望を表すモダリティ文である。「ちょっと」の選択率が70.3%となり、「少し」の選択率29.7%を40.6ポイント上回る結果となった。「ほしい」という話者の願望を表す言葉があるため、「ちょっと」の選択率が高くなったのだろう。

また、設問15は聞き手に対する話者の依頼文であるとも捉えられる。設問7と同様、設問15の「ちょっと」には、笹本（2006）が指摘した「即時性」の機能があると言える。

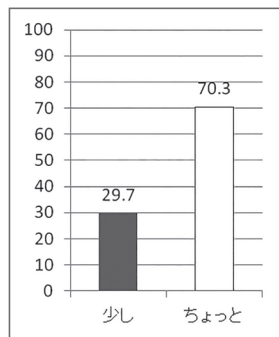


図4-3-15. 設問15の選択率(%)

設問16. (少し・ちょっと) くらい手伝ってほしい。

設問16も設問15と同様、話者の願望を表すモダリティ文である。「ちょっと」の選択率が51.3%、「少し」の選択率が48.7%となった。副助詞「くらい」は、数量や頻度を表す言葉について、おおよその程度を表すことができる。数量性イメージが濃いため、「少し」の選択率が「ちょっと」の選択率を上回ると予想したが、実際は両者の選択率に大きな差は見られなかった。文末に「ほしい」という話者の願望を表すモダリティが含まれているためだと考えられる。

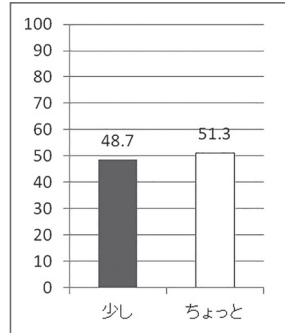


図4-3-16. 設問16の選択率(%)

設問17. 駅までどう行けばいいかわからないから、(少し・ちょっと) 教えてくれない？

設問17は話者の依頼を表すモダリティ文である。「ちょっと」の選択率が80.5%となり、「少し」の選択率19.5%を61.0ポイント上回った。語尾が「～てくれない？」という、親しい人に話しかけるような表現になっていることが影響していると考えられる。「少し」よりも親しみのある「ちょっと」の方が選択しやすかったのだろう。

また、設問17は依頼文であるため、秋田(2005)の負担を減少させる機能や、笹本(2006)のいう「即時性」も現れやすい。そのため「ちょっと」の選択率が高い結果になったと思われる。

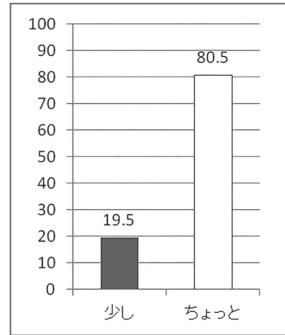


図4-3-17. 設問17の選択率(%)

設問18. 駅までの道順がわからないので、(少し・ちょっと) 教えてもらえませんか？

設問18も設問17と同様、話者の依頼を表すモダリティ文である。「少し」の選択率が57.1%となり、「ちょっと」の選択率42.9%を14.2ポイント上回った。文末の「～てもらえませんか？」という言葉から、聞き手は話者との心理的距離が遠い目上の相手だと考えられる。設問18の文はフォーマルな文であり、「ちょっと」より丁寧な言い方である「少し」の選択率が高くなったのだろう。

また、「道順」という言葉から数量性を意識し、「少し」を選択した回答者もいたのではないだろうか。

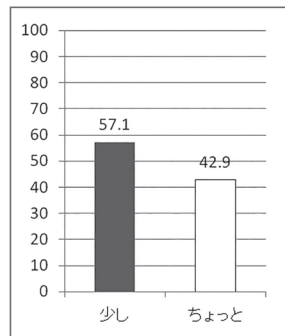


図4-3-18. 設問18の選択率(%)

5. 自由記述の分析

自由記述は205名から得られた。各記述を意味のあるまとまり（1文～2文程度）ごとに切片化すると、236件となった。その一部を、「少し」に関する自由記述と「ちょっと」に関する自由記述とに分け、それぞれ以下の表5-1と表5-2に示した。なお、表中左端にある番号は、切片化した際、入力順に割り振ったデータ番号である。

表5-1. アンケートの自由記述（「少し」に関する記述）

	性別	年齢	自由記述
76	男	10代	ちょっとはオールラウンダーだけど、少しは量とか、頻度を表している。
79	女	20代	個人的には、～だけ、～しかのように前後に言葉が加わる時は「少し」を使うほうが自然なような気がしました。
123	女	40代	量を言う時は「少し」です。
144	男	30代	また、「量」や「時間」などに対しては「少し」がふさわしいのかなとも思いました。
177	女	40代	量的なことを表す時には「少し」を使って感情の程度を表す時や親しみの程度が深い時に「ちょっと」を使うのかなと感じた。

表5-1に挙げた5件は、「少し」に関する自由記述である。上記の76、123、144、177が述べているように、「少し」は量や時間と密接に結びついた語であると考えられる。また、上記の79は、三宅（2003）の説を支持していると言える。

表5-2. アンケートの自由記述（「ちょっと」に関する記述）

	性別	年齢	自由記述
2	女	20代	相手に負担をかけるようなものは「ちょっと」で言葉をにごすことが多いように思いました。
19	女	50代	「やわらげ」の効果がある「ちょっと」があると思いました（↓15や17など）
25	女	20代	また、「ちょっと」は呼びかけにも使われると思う。
111	女	20代	「ちょっと」は量というよりは呼びかけに近いものがあるかな、と感じた。

表5-2に挙げた4件は、「ちょっと」に関する自由記述である。上記の2がいう「言葉をにごす」や上記の19が述べている「やわらげ」は、秋田（2005）の負担を減少させる機能に相当すると考えられる。また、上記の25や111は呼びかけとしての「ちょっと」を挙げている。「ちょっと」が少量を表すという意味以外の意味や用法を持つ語として定着しつつあることを示唆する記述が多く見られる結果となった。

6. 「少し」と「ちょっと」の使用状況

「少し」の選択率が「ちょっと」の選択率を上回った設問文と、「ちょっと」の選択率が「少し」の選択率を上回った設問文をそれぞれ抜き出し、「少し」が使われやすい状況、「ちょっと」が使われやすい状況をまとめていく。

以下の表6-1に挙げたのは、「少し」が優勢になった設問文である。

表6-1. 「少し」が優勢になった設問文

設問番号	設問文	選択率(%)	ポイント差
4	遊んでばかりいないで、(少し・ちょっと)は勉強しろ。	68.1	36.2
12	この問題集は難しくて(少し・ちょっと)しか解けそうにない。	66.6	33.2
14	訓練と聞いたから、もう(少し・ちょっと)ひどいものかと思った。	66.2	32.4
9	彼の仕事量は私のよりも(少し・ちょっと)多い。	64.3	28.6
8	疲れたから(少し・ちょっと)の間休ませて。	63.7	27.4
5	待ち合わせの時間より、到着が(少し・ちょっと)早すぎた。	58.5	17.0
18	駅までの道順がわからないので、(少し・ちょっと)教えてもらえませんか？	57.1	14.2
6	待ち合わせの時間より、(少し・ちょっと)でも早く着くように行こうよ。	54.6	9.2

「少し」が優勢になった設問は8問であった。設問4や設問12、設問6のように助詞が後続していたり、設問14のように副詞があったりすると、「少し」が使用されやすいことがわかる。助詞や副詞がつくことによって、「少し」や「ちょっと」が表せるものが数量に限定される。そのため、「少し」の方が「ちょっと」より数量性イメージが濃いと言えるだろう。

表6-2. 「ちょっと」が優勢になった設問文

設問番号	設問文	選択率(%)	ポイント差
11	この問題は難しくて(少し・ちょっと)解けそうにない。	86.1	72.2
17	駅までどう行けばいいかわからないから、(少し・ちょっと)教えてくれない？	80.5	61.0
7	疲れたから(少し・ちょっと)休ませて。	75.3	50.6
15	(少し・ちょっと)手伝ってほしい。	70.3	40.6
1	そのケーキ、(少し・ちょっと)ちょうだい。	69.1	38.2
13	体調の悪い彼に仕事を強要するのは(少し・ちょっと)ひどいと思う。	66.8	33.6
2	そのケーキ、(少し・ちょっと)だけちょうだい。	65.7	31.4
3	私の話を(少し・ちょっと)聞け。	61.0	22.0
16	(少し・ちょっと)くらい手伝ってほしい。	51.3	2.6
10	彼の仕事は私のよりも(少し・ちょっと)大変そうだ。	50.7	1.4

表6-2には、「ちょっと」の選択率が「少し」の選択率を上回った設問文を挙げている。「ちょっと」が優勢になった設問は10問であった。設問11や設問17から、否定形「ない」と「ちょっと」は共起しやすいことがわかる。三宅(2003)の調査でも、否定形式と組み合わせ

る例は「『ちょっと』の方がはるかに多い」ことが判明している。

また、設問7や設問15、設問1のように話者の気持ちが表れやすい文、特に依頼文において「ちょっと」が使用されやすいと考えられる。

7. まとめ

「少し」と「ちょっと」の使用頻度が、文体や文の構成、発話状況などによってどのように変化するかを見てきた。その結果、主に以下の表7-1に挙げた三点によって使い分けがなされていることが明らかとなった。

表7-1. 「少し」と「ちょっと」の使い分けの条件

	「少し」	「ちょっと」
①話者と聞き手の心理的距離	遠い *特に敬語が使用される場合	近い
②数量性イメージ	濃い	薄い
③モダリティ性の有無、強さ	モダリティ性がない または弱い	モダリティ性が強い *特に否定形、依頼文、命令文の場合

表7-1には、「少し」と「ちょっと」を使い分ける際の条件を、その優先順位が高いものから挙げている。例えば、モダリティ性が強く数量性イメージが薄い文であっても、話者と聞き手の心理的距離が遠ければ、「ちょっと」より「少し」の方が使用されやすい。

アンケートの自由記述からは、「少し」と「ちょっと」の違いについて考えた際、①の「心理的距離」を挙げた回答者が多く見られた。友達や親しい人には「ちょっと」を使う傾向があり、上司や先輩には「少し」を使う傾向がある。普段どちらを多用しているかは、その人が普段誰と一緒にいることが多いかによって変化すると言えよう。

数量性イメージの濃さも、「少し」と「ちょっと」の使い分けに影響していることが判明した。「少し」は、数量性を想起させる取り立て助詞「は」や「しか」などと共起しやすい。しかし、話者と聞き手との心理的距離が近い場合、「ちょっと」は、数量性を意識させる語句であっても共起しやすくなる。

依頼文や命令文は、書き言葉ではなく話し言葉で出現する、モダリティ性の強い文である。モダリティ文における「ちょっと」は、「少量・小程度」を表しているとは限らず、意味の捉え方は回答者によって異なってくるだろう。そのためモダリティ文における「ちょっと」の使用頻度が高くなったと考えられる。

8. 今後の課題

本稿では、アンケート調査から「少し」と「ちょっと」の違いを明らかにしてきたが、アンケートには不自然な設問文があるとの指摘も受けた。今後は、新聞や雑誌、小説など公共の著作物も活用し、自然な設問文を作ることを心がけたい。

また、自由記述欄に「男、女区別の設問の方が良いと思います。」(50代、男性)、「関西弁なのでちよっとの方が使いやすい。」(10代、男性)、「年齢によって少しとちよっとの使い方がちがうのかもしれない。」(50代、男性)などの記述があったことから、性別や出身地、年齢によって回答に差異があるか否か、別途集計し検討したい。

【参考辞書】

日本国語大辞典第二版編集委員会 (2001) 『日本国語大辞典 (第二版)』 小学館

【参考文献】

- 秋田恵美子 (2005) 「現代日本語の「ちよっと」について」『創価大学別科紀要 (17)』 創価大学別科日本語研修課程
- 門倉正美 (1996) 「ちよっと・少し・少々」芳賀綏・佐々木瑞枝・門倉正美編『あいまい語辞典』 東京堂出版
- 小出慶一 (2012) 「フィラーとしての「ちよっと」について」『埼玉大学紀要. 教養学部48 (1)』 埼玉大学教養学部 pp.59-71
- 笹本明子 (2006) 「「ちよっと」の発話機能について—行為要求文に表れる「ちよっと」を中心に—」『同志社女子大学大学院文学研究科紀要 第六号』 同志社女子大学大学院文学研究科 pp. 115-136
- 謝平 (2007) 「日本語の「ちよっと」と中国語の“有点”について」『ことばの科学 (20)』 名古屋大学言語文化研究会 pp.85-100
- 周国龍 (1994) 「要求行為における『ちよっと〜』の機能に関する一考察」『名古屋大学人文科学研究 (23号)』 名古屋大学大学院文学研究科 pp.167-178
- 仁田義雄 (2002) 『新日本語文法選書3 副詞的表現の諸相』 くろしお出版
- 三宅節子 (2003) 「程度小を表わす副詞の研究—「すこし/ちよっと」を対象に」『日本語・日本文化 (29)』 大阪外国語大学研究留学生別科 pp.115-136
- 劉亜韜 (1999) 「「ちよっと」についての一考察」『文学史研究 (40)』 大阪市立大学 pp.32-38
(こいずみ・じょうこ)

【別添資料】

「少し」と「ちょっと」に関するアンケート

以下の設問文を読み、あなたがより使いやすいもの一つに丸をつけてください。

1. そのケーキ、(少し・ちょっと) ちょうだい。
2. そのケーキ、(少し・ちょっと) だけちょうだい。
3. 私の話を(少し・ちょっと)聞け。
4. 遊んでばかりいないで、(少し・ちょっと)は勉強しろ。
5. 待ち合わせの時間より、到着が(少し・ちょっと)早すぎた。
6. 待ち合わせの時間より、(少し・ちょっと)でも早く着くように行こうよ。
7. 疲れたから(少し・ちょっと)休ませて。
8. 疲れたから(少し・ちょっと)の間休ませて。
9. 彼の仕事量は私のよりも(少し・ちょっと)多い。
10. 彼の仕事は私のよりも(少し・ちょっと)大変そうだ。
11. この問題は難しく(少し・ちょっと)解けそうにない。
12. この問題集は難しく(少し・ちょっと)しか解けそうにない。
13. 体調の悪い彼に仕事を強要するのは(少し・ちょっと)ひどいと思う。
14. 訓練と聞いたから、もう(少し・ちょっと)ひどいものかと思った。
15. (少し・ちょっと)手伝ってほしい。
16. (少し・ちょっと)くらい手伝ってほしい。
17. 駅までどう行けばいいかわからないから、(少し・ちょっと)教えてくれない？
18. 駅までの道順がわからないので、(少し・ちょっと)教えてもらえませんか？

上記のアンケートについて、お気づきの点や感想などございましたらお書き下さい。

国籍 () 出身地 () 都・道・府・県 性別 (男・女)
年齢 (10代・20代・30代・40代・50代・60代・70代以上)
職業 (学生・社会人)

ご協力ありがとうございました。